

奈良暦師吉川家文書の陰陽道祭祀史料

梅田千尋

Historical Materials on Omnyōdo Rituals in the Nara Koyomishi Yoshikawa Family Documents

UMEDA Chihiro

はじめに

①吉川家の陰陽道実践と陰陽道祭

②「陰陽道」祭文・祭祀史料の伝来

結語

【論文要旨】

近年、近世の陰陽師・陰陽道組織研究が進展してきた一方、陰陽道実践に関する研究は取り残されてきた。陰陽道祭祀に関する研究は、陰陽道の成立期もしくは最盛期とされる平安後期に集中してきた。また、中世以降の陰陽道祭を取り上げた研究でも朝廷・幕府の陰陽道祭祀や室町期における公武祈禱を中心論じており、地域の陰陽師が残した祭祀史料を分析した研究はほとんどない。本稿では国立歴史民俗博物館所蔵奈良暦師吉川家文書の祭祀関連史料に着目することで近世奈良地域における陰陽道祭祀の実態解明を試みる。

吉川家文書は、南都暦の頒暦史料とともに、陰陽師としての日常活動や祭祀に関する史料を残す。うち、陰陽道祭祀に関わる祭文・祭祀次第・呪符史料は祭神・祈願内容ともに多岐に亘り、しかも実際に近世奈良地域で用いられた可能性が高い。これら祭文・祭祀、呪法史料について、本稿では祭祀種別ごとの分類を試み、朝廷周辺での祭祀（土御門家周辺の祭祀形態）との異同について検討した。吉川家文書に伝わった

陰陽道祭祀には、朝廷周辺の土御門系祭祀と同一もしくは類似する陰陽道祭もあり、なかには、土御門家からの伝来経緯が判明する史料も存在する。こうした土御門家伝来文書は、朝廷祭祀への参加を証明し、陰陽師集団内での権威や正当性を主張する機能をもつものであった。一方、土御門家からの単純な受容ではなく、南都陰陽師の主体的な取捨選択による改変・読み替えがみられる祭祀文書も多数を占める。そのなかには中世神話的神楽／祭文や、偽経・道教教典の影響が見られるものや、九将神祭のように陰陽五行説・易を原理としつつ独自性をもつものもあった。つまり、土御門家から伝授された祭文が南都陰陽師の祭祀体系に果たした影響は限定的であったと考えられる。また、土御門系の祭祀とは祭祀名や祭神・祭祀文などが異なる独自の祭祀の存在も確認され、陰陽道祭祀の地域差も浮かび上がった。

【キーワード】 陰陽道、祭文、陰陽道祭、吉川家文書、奈良